



オーストラリア・ブリスベンでホームステイ

8泊9日の福智町中学生海外研修

オーストラリア第三の都市、クイーンズランド州の州都で人口約150万人のブリスベン。亜熱帯性気候に恵まれた都市が福智の中学生を迎え入れました。12月3日から11日まで9日間の日程で行われた福智町中学生ホームステイ海外研修。旧金田町からの継続事業で、今年で4回目を数えます。赤池・金田・方城中学校から12人が渡豪し、それぞれがホストファミリーの家で過ごしました。現地では英語の授業や子どもたちとの交流など、毎日が発見の連続。日常とはまったく違う環境の中で、一人ひとりが人の温かさや異文化に触れ、常夏の大陸で視野を広げました。



町長日誌

▼今年の干支は、亥である。わたしも、この世に生を享けて5度目の年男となるのをきつかけに、改めて亥について調べてみた。まず、字義から言えば「亥は十二支の第12番目。方位は、北から30度西の北北西の方向。時刻は午後10時ごろ、または午後9時ごろから午後11時までの間。月は旧暦10月。動物では猪が充てられている」とある。方位のこととなると、わかったようではわからない。また「亥の字は、イノシシまたは豚の骨格をたてに描いた象形文字で、骨組みができあがるの意を含んでいる」とあった。これには、なるほどと、少しわかった気になる▼さらに興味をそそられ、第二次世界大戦後の亥年の主な出来事や流行語を追ってみた▼昭和22年には日本国憲法が施行され、六三制教育の開始により、新制中学が発足した。赤い羽根や学校給食、そして鐘の鳴る丘といった言葉が、しきりに人々の口の端にのぼった▼昭和34年になると、皇太子（現天皇陛下）ご成婚。ソ連宇宙ステーション「ルナ3号」で月の裏側撮影に成功と続く。世相を反映して岩戸景気と呼ばれる▼また、昭和46年を迎えると、6月に沖縄返還協定が調印され、ガンバラナクッチャというテレビCMが視聴者を元気づけた▼そして昭和58年。NHK朝の連続テレビ小説「おしん」が驚異的な視聴率をあげ、日本中を席卷した▼元号が変わって初めての亥年となった平成7年の1月には、6千3百人を越える犠牲者が出た「阪神・淡路大震災」が発生。いまだに哀悼の念を禁じえない。この震災から、安全神話の崩壊という言葉が使われ始めた▼こうして振り返ってみると、記憶に蘇ることばかりで、まさに「光陰矢のごとし」の思いである。はたして今回の亥年が、どんな歴史を刻むのだろうか。町民のみならず一人おひとりにとって、すばらしい年になることを願わずにはおれない。